**阿蘇神社の儀式と祭礼**

阿蘇神社の主な祭礼は農耕サイクルの季節に応じたものです：春は田植え、夏は旱魃や過剰な降雨、猛暑、虫害の回避、秋は収穫後の神々への感謝が行われます。1982年、その文化的重要性を反映し、阿蘇の農耕祭事は文化庁から重要無形民俗文化財に指定されました。

 阿蘇神社が3月に開催する「火振り神事」では、茅の松明を振り回し、この神社の十二祭神の一柱とその妻（地域の別の神社から持ってこられたご神木の枝で表されます）との結婚を祝います。二神の婚姻は豊穣をもたらすとされています。

 7月末に行われるおんだ祭りも、豊穣祈願の祭礼です。神社の祭神たちが4基の神輿に担がれ、馬に乗った神職たち、頭から足まで白装束に身を包んで頭上に神々へ捧げる食物を運ぶ14人の女性たち（宇奈利）、男・女・雄牛の頭を乗せた棒を持った三人の村の少年たちを伴って地域の田んぼを見てまわります。観客は神輿に稲穂を投げつけます。稲穂が神輿の屋根にたくさんつくほど豊作となります。

 9月下旬には、米の収穫を祝う「田実祭（田の実りの祭り）」が行われます。この祭りでは流鏑馬が奉納されます。

 農耕に特化した祭礼に加え、阿蘇神社の神職たちは毎年6月上旬、「火口鎮祭」を執り行います。神職たちは祝詞を唱え、白い紙の垂れ飾りがついた棒三本を阿蘇山の三神への供物として阿蘇山火口に投げ入れます。